

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
癰瘍剤 外瘍剤 (陽証) 1		
<p>せんぼうかつめいいん 仙方活命飲</p>	<p>清熱解毒・消腫潰堅・活血止痛</p>	<p>白芷・貝母・防風・赤芍・当帰尾・甘草・皂角刺・穿山甲・天花粉・乳香・没薬 各3g・金銀花・陳皮各9g 水煎服。 水と酒を半々で煎じて服用してもよい。</p>
<p>校注婦人良方</p>	<p><主治> 癰瘍腫毒初起 局所の発赤、腫脹、疼痛、熱感があり、発熱、微悪寒、舌苔が薄白あるいは微黄、脈が数で有力を呈する。</p> <p><病機> 熱毒が壅結し気血が壅滞して生じる癰瘍腫毒（皮膚化膿症）である。 熱毒が壅盛になって発赤、熱感、腫脹が生じ、気血・営衛が壅遏されるので、局所では通じないための痛みが、全身的には肌表が温煦されないので悪風感がみられる。邪正相争による壅熱のために発熱して脈が数になり、邪正共に盛んであるから脈が有力である。</p> <p><方意> 清熱解毒、活血祛瘀、消散軟堅を同施して、癰瘍を消散させる。 清熱解毒の金銀花が主薬で、防風・白芷は疏風し営衛を透達させて熱毒を外透し、主薬を補助する。当帰尾・赤芍・乳香・没薬は活血散瘀、消腫止痛に、貝母・天花粉は清熱散結、排膿に、穿山甲・皂角刺は解毒透絡、消腫潰堅に、陳皮は理気养胃に、甘草は解毒和中に働く。全体で清熱解毒、散瘀、潰堅消腫の効能をもち、化膿前には消散し、化膿したときは外潰させる。酒を加えると活血の力が増し、諸薬を病変部に直達させる。</p> <p><参考> 加減法 痛みが強くなければ、乳香か没薬を減去する。 発赤、腫脹、疼痛が強ければ、辛温の白芷・陳皮を除き、清熱解毒の蒲公英・連翹などを加える。 皮下出血には、牡丹皮を加える。 化膿が潰破した場合や、脾胃虚弱、気血不足には用いない。 仙方活命飲<医方集解>は、本方の赤芍を除いたものである。 真人活命飲<証治準繩>は、本方と同じものである。</p>	